

研修会報告

「最近の金融市場動向：為替・金利・株価の現場から」

2020年2月6日(木)

講演：内山 一慶

みずほ銀行 米州資金部 部長

総務担当理事：石原亮



さる2月6日(木)、経団連米国事務所にみずほ銀行 内山部長をお招きし、金融市場を相手に日々業務を行う中で感じる動きと今後の方向性についてご講演いただきました。

スペースの関係上、商工会会員40名先着順での開催とし、募集開始後早々に定員に達したため、ご参加頂けなかった会員の皆様には大変申し訳ございませんでした。当日は、お弁当を食べながら「和の作法」に乗ったプレゼンテーションと質疑応答を行いました。

冒頭、銀行に入行後、30年近く一貫して金融市場部門を歩むも、専門家として奢れるなかれというナシーム ニコラス タレブ「ブラックスワン」の引用から始まりました。座右の銘たる「脳にダマされるな！」や、2001年アメリカ同時多発テロ事件をニューヨークの現場で経験したことなども踏まえ、高まる政策の不透明性や様々なリスクを予測しながら、為替・金利・株価が何を考え、何に反応するのか、各種データを交えながら、トランプ政権や議会が打ち出す政策を如何に金融市場が織り込んでいるのかをご説明いただきました。一寸先は闇なれど、グーグル検索トピックスから人々の関心事を推し量るなど先を読む術もご紹介頂き、情報という点を線で結び、景気動向や市場の期待値を予測する手法を学びました。



最後に今回の研修に際し、会場をご提供頂いた経団連米国事務所様に、この場を借りて御礼申し上げます。

